




1	チーム名（研究対象領域・教科） 中学部 生活単元学習
2	メンバー 中学部教員7名
3	チームのテーマ 生徒が主体的に学ぶことができる生活単元学習の授業づくり ～最後まで活動できる教材・教具の工夫～
4	対象生徒に願う主体的な姿 活動に期待感をもち、自分の活動に集中して取り組み、苦手な活動も最後までやり通すことができる姿。
5	<p>研究実践の内容</p> <p>(1) 対象生徒の実態把握</p> <p>◎担任だけではなく、各教科の教員による複数の視点から実態を把握するようにした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・何でもやろうとするが、苦手なことをやると最後まで続かない。 ・指先を使う活動が苦手である。(巧緻性) ・視覚的(色覚)に見えにくいようである。 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>授業づくりを行うにあたっては、楽しみながら、一人で最後までできる学習内容や材料の工夫、視覚的に見えやすいような工夫、環境設定などに配慮することにした。</p> </div> <p>(2) 授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材名「ゲームをしよう」(紙相撲) ・内容 ①自分の力士制作 ②紙相撲の実施 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>②</p>  </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>検証授業 1</p> <p><対象生徒の様子></p> <p>制作活動では、一人で取り組むことが難しく、教師の支援が多くなってしまったが、活動そのものは集中して取り組む様子が見られた。自分の力士が完成すると、達成感も感じている様子だった。ゲームの場面では、3人の中で、一番張り切って取り組む様子が見られた。勝ち負けを完全に理解することは難しいようだが、シンプルな活動にとっても意欲的に取り組む姿が見られた。</p> <p><グループの話合いで出た意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒が一人でもできる活動を設定することで、より達成感を感じることができるのではないか。 ・材料や教材教具の工夫では、ダンボールではなく、加工しやすい材料を用意したり、補助具等を準備したりすることで、主体性を高めることができるのではないか。 ・制作活動を行う際に、目印をつける、切りやすく切り込みを入れておく等のできる状況づくりをすることで、少ない支援で活動できるのではないか。 ・活動を始める前に、注意点やポイントを確認してから取り組んではどうか。 </div>

検証授業2

<改善した点>

- ・活動の精選をし、対象生徒が一人で「できる」活動にする。
- ・活動する際に、活動の目印になるように本人の見やすい色で線を引き、その線を手がかりに活動に取り組めるようにする。
- ・ダンボールは加工するのが難しいため、扱える素材（厚紙等）を使用してスムーズに取り組めるようにする。

<対象生徒の変容>

「ゲームをしよう」（紙相撲）を数回にわたり実施してきたことで、活動に見通しをもって取り組めるようになってきた。制作活動の際に「自分でできる活動」がある事で、より意欲をもって取り組む様子が見られた。また、テープを貼る位置、はさみで切る箇所などに対象生徒の見やすい色で目印をつけ、それを事前に確認してから取り組んだことで、手元に注目して取り組める姿も増えたようである。さらに、ゲームに関する小道具の制作を行ったことで、より期待感を持ってゲームを行い、環境づくりを行うことでさらに意欲的に取り組む姿勢も見られた。

<グループの話合いで出た意見>

- ・検証前は、自分一人でできる活動が少なく待ち時間があったが、検証後は、一人で集中して取り組むことができ、自分の活動が終わると「できました。」と自然と報告する姿も見られた。
- ・「自分でできる工夫」「わかって取り組める工夫」をすることで、次は何をするのか、期待感をもって活動に取り組む姿も見られた。
- ・実態に合った活動はもちろんであるが、実態に合った説明を具体的に行うことで、主体的に「わかってできる」ことに繋がるのではないか。

6 成果と課題

【成果】対象生徒が取り組みやすい活動を精選したことで、次の活動に期待感をもって取り組む様子が見られた。対象生徒が手元に注目しやすいように、線などの目印をつけたことで少ない支援で取り組む姿も見られた。また、回数を重ね、活動に見通しがもてるようになってくるとスムーズに準備もできるようになってきた。紙相撲大会に向けて、行司の帽子や軍配、対戦表も準備したことで期待感をもって取り組むことができていた。自分一人で取り組める活動に取り組むことで、周囲と違う活動でも、最後に達成感を得ることができ、意欲をもち、集中して取り組む姿を引き出すこともできた。

【課題】どこまで生徒にやらせるのか、どこをねらうのか（活動、ねらいの精選）が必要だった。制作活動を実施する際に、加工しやすい材料を使用することで、より自分でできる場面を増やせると良かった。合わせて、最後に紙相撲大会をするということをイメージできるような工夫が必要だった。ルール表も自分たちで制作したが、相手にも、わかりやすく、見やすい工夫が必要であった。

【研修を通して】研修を進めるにあたって「社会に出るまでにどんな力（生活に必要な力）を身につけなければいけないか。」「新学習指導要領を基に目標やねらいを定める。」「キャリア教育の視点から。」などの話も出たことで、改めて、生活単元学習の意義を考えるよい機会となった。主体的に学ぶことができるためには、生徒の実態把握をし、繰り返し学習することで「できた」「わかった」などの発言や表情より満足感や成就感を味わえるような単元設定や内容、教材・教具の工夫、環境設定などが大事であると思われる。今回の研修を通して、今後の授業づくりに生かせるようにしていきたい。